

千葉県立中央博物館分館 海の博物館 ニュースレター

いそつぴ通信

(平成14年度版)

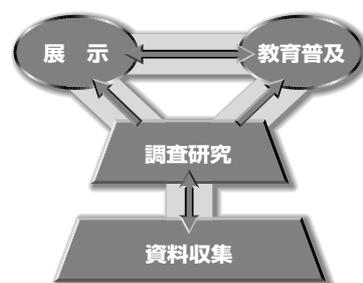
The Newsletter of the Coastal Branch of Natural History Museum and Institute, Chiba
No. 4 (2002.4 - 2003.3)



千葉県立中央博物館分館 海の博物館

千葉県立中央博物館分館海の博物館は、平成11年3月のオープン以来、本年度末をもって4年を経過しました。この間、「収集した資料を調査研究し、その成果を展示や教育普及活動に反映させる」という理念のもとに各種の博物館活動を展開してきました。その成果か、開館当初は無名であった当館も、最近では海の自然や生きものについての問い合わせが増え、また、入館者数も順調に推移しており、やっと「勝浦の海の博物館」としてみなさまに認識していただけるようになってきました。

本書「いそび通信」は、年度単位で海の博物館の活動のようすを紹介するニュースレターです。今号では、平成14年度の大きな出来事と、各種の博物館行事を通してみなさまと直接接するスタッフにスポットを当てた編集としました。本書により、多くの方々が海の博物館に興味を持ち、実際に来館し、いろいろな形で当館を活用していただければ幸いです。



目次

ようこそ海の博物館へ！

平成14年度のトピックス	1
海の体験コーナーに新企画登場！	1
平成14年度マリンサイエンスギャラリー ヤドカリの世界 開催	2
収蔵資料展イッカクー長い牙を持つクジラー 開催	4
新展示品登場！	5
バックヤードツアー 開始	6
海の生きもの観察ノート②「海藻を観察しよう」刊行	6
エチゼンクラゲ勝浦に出現！	7
伊豆大島魚類調査	7
スタッフ紹介	8
分館長	8
研究員	8
体験学習指導員	10
平成14年度の活動記録	11
1 展示活動	11
2 教育普及活動	17
3 資料収集活動	21
4 調査研究活動	23
事務室より	26
平成15年度の行事予定	28
職員からの一言	

平成14年度のトピックス

海の博物館のこの一年を振り返り、大きな出来事を紹介します。

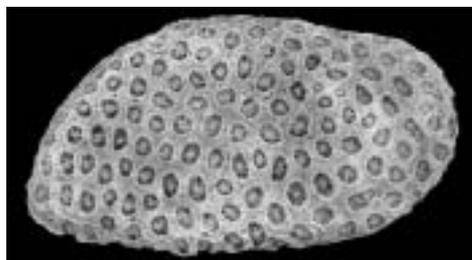
海の体験コーナーに 新企画登場！

海の体験コーナーは、体験学習指導員といっしょに海にまつわる実験や工作にチャレンジする行事です。昨年度、『海藻おしぼを作ろう』というメニューでスタートしました。今年度は、ここに紹介する二つのメニューが加わって、ますます人気を集めています。

コーラルプリントを しよう



“海の生きものの形の拓本をとる”という高梨指導員の発想からスタートしました。内容は、サンゴの骨格にうすい布をのせ、その上から絵の具が付いたタンポで軽くたたき、“拓本”をとる要領で模様を型取っていくというものです。発案から、材料の試行錯誤、わかりやすくメニューを進行させるシナリオづくり、作り方をのせた解説シートづくりなど、約8ヶ月の準備期間を経て、5月にこのメニューで初めての体験コーナーを開催しました。“コーラル（サンゴの意味です）プリント”は、当館オリジナルのネーミングです。



コーラルプリントの型となるサンゴの骨格



コーラルプリント制作中

シラスをしらべよう

—冷蔵庫の中の小さな海—



サブタイトルからもわかるとおり、このメニューは“家庭でも海を身近に感じるきっかけを作りたい”という高橋指導員のアイデアです。内容は、シラスパックに混ざるさまざまな小さい生きものを探してみようというものです。はじめは、いくつものスーパーでシラスパックを買い、生きものをより分けてはスケッチをくり返しました。混ざっている小さな生きものとはどんな種類なのかと勉強会も開きました。参加した人がより分けたものを持ち帰れるよう工夫もして、初めてのコーナーを7月に開催しました。



シラスパックに混ざる生きものの勉強会

こんな生きものが混ざっています(カニのこども)



平成14年度
マリンサイエンスギャラリー
ヤドカリの世界
開催
平成14年11月2日～12月23日



ヤドカリと貝殻の関係をわかりやすく表現したオリジナル展示

ヤドカリは貝殻をせおっていることや、ときどき引越（貝殻の交換）をすることなどがよく知られている生きものです。平成14年度のマリンサイエンスギャラリーでは、このヤドカリの体のつくりや生活、種類について深く掘り下げて紹介しました。

展示は、「これがヤドカリだ!」、「ヤドカリのくらし」、「ヤドカリ大集合」、「観察コーナー」の四つのコーナーで構成し、各コーナーでは剥製やパネルを陳列するだけでなく、体験的な展示手法も取り入れ、楽しみながら学べる展示を目指しました。ここでは、特に好評だった展示を中心に、マリンサイエンスギャラリーのようすを紹介します。



タラバガニのなかま（右）と本物のカニ（左）の腹部を比較するための標本

ヤドカリは、エビやカニと同じ十脚甲殻類のなかまです。その証拠に、ふだん貝殻の中に隠れているヤドカリの体をよく見てみると、エビやカニと共通する特徴をいくつも持っています。ヤドカリを貝殻から抜き出し、エビやカニと並べれば同じなかまであることがわかりやすいのですが、丸裸のヤドカリは、貝殻に入っているものとだいぶイメージが異なってしまいます。そこで考え出した展示が、ヤドカリのせおった貝殻部分をスライドさせると中身がみえるというものです。これによって多くのお客様にヤドカリと貝殻の関係や、ヤドカリの体のつくりを理解していただけたようです。

ヤドカリのなかまはすべてが貝殻をせおうわけではありません。専門的にみたヤドカリの特徴としては、腹部がねじれていることや、脚の長さが前と後ろで大きく異なり、特に一番後ろの脚がその他の脚に比べて小さくなっていることなどが挙げられます。北海の海の幸として馴染みの深いタラバガニやハナサキガニはこれらの特徴をもっています。つまり、タラバガニやハナサキガニはカニではなく、ヤドカリなのです。タラバガニがカニではないことは多くのお客様がご存知のようでした。本物のカニとの違いは脚の数が少ないということもよく知られていました。しかし、脚の数が少ないのは、なくなってしまったのではなく、小さくなって甲の中に折り畳まれていることや、裏側をみるとタラバガニにはヤドカリのなかまの証拠となる腹部のねじれが確認できることはあまり知られていなかったようです。腹部のかたちを比較してもらうため、タラバガニのなかまと本物のカニ（タカアシガニ）の標本を手にとって観察していただける標本を展示しました。



ヤドカリとイソギンチャクの展示



今回の展示では、市内二ヶ所の歩道橋に広報用の横断幕を設置しました。アンケートの答えによると、これを見て来館して下さった方も少なくないようでした

ヤドカリのなかまには貝殻をせおうだけでなく、その上に毒をもつイソギンチャクをつけて身を守る種類もいます。これらのヤドカリは引っ越しをする時にもとの貝殻についたイソギンチャクをまるでマッサージでもするかのようにしてうまく取り外し、新しい貝殻に付け替えます。この行動は、ビデオによって紹介し、その横にはイソギンチャクを付けている生きたヤドカリ（表紙写真参照）を水槽展示しました。会場でのアンケートによると、この展示は好評だったため、マリンサイエンスギャラリー終了後も引続きロビーにて展示しました。



今回の展示では、日本財団の助成により、カラー10ページの展示図録を作り、会場で配付しました

わかりにくい
5%

ふつう
27%

わかりやすい
68%

展示の内容は解りやすかったですか？

つまらない
6%

ふつう
21%

おもしろい
73%

展示はおもしろかったですか？

会期日数	52日
開催日数	45日
期間入場者	24,968名
アンケート回答者	612名
展示資料	標本 38点
	パネル 51点
	生体 15種

回答者居住地

勝浦市内8%

県外38%

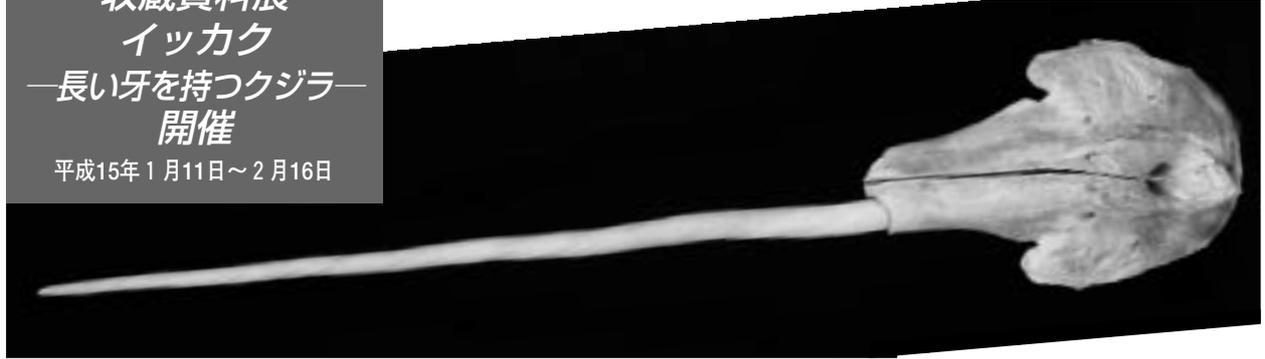
県内54%

今回の展示は、回答いただいたお客様の7割から「おもしろい」という評価をいただきました。そのうち、144名の方が特に面白かったコーナーの名前を挙げて下さいました。ヤドカリとイソギンチャクの展示と、クイズ形式で水槽に入った潮だまりのヤドカリの名前を当てる展示が人気を二分しました。逆に、「博物館＝珍奇な物の陳列」というイメージをお持ちの方は身近な生きものであるヤドカリがテーマではものたりないと感じたのかも知れません。

また、アンケートではどのようにして今回の展示会を知ったかを伺い、4割の方から「来館して知った」との回答をいただきました。マリンサイエンスギャラリーだけでなく、海の博物館全体としての広報活動に検討の余地があることを実感しました。

収蔵資料展
イッカク
 —長い牙を持つクジラ—
開催
 平成15年1月11日～2月16日

オスのイッカクの頭骨と牙



みなさんはイッカクという動物をごぞんじですか？ 今回の収蔵資料展では、このイッカクについて、体のつくりや生態を当館所蔵の骨格標本を中心に写真や映像なども使って紹介しました。

イッカクは北極圏の海にくらすクジラのなかまで、さまざまな種類がいるクジラ類の中でも一風変わった姿をしています。背びれがなくずんぐりした体つきに小さく丸い頭、イチヨウの葉のような形の尾びれが特徴的ですが、何といたっても目を引くのは、イッカク（一角）という名前の由来でもある、オスに見られる一本の長い「角」でしょう。しかし、これは実は角ではなく、特殊な形の歯（牙）なのです。オスのイッカクは成長するにつれ左側の歯だけがらせん状に長く伸びていきます。この牙の使い道についてはさまざまな説がありましたが、現在はオス同士の争いに用いられると考えられています。

生物の造形の中でも最も不思議なものの一つといえるイッカクの牙は、古くから人々の興味を引きつけてきました。かつては想像上の動物ユニコーンの伝説と結びつけられ、イッカクの牙がユニコーンの角として売買されていたこともあります。

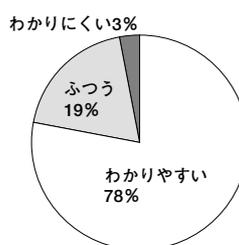
海の博物館では、博物館活動の一環として海の生きものに関するさまざまな資料を収集しています。その中でも、今回公開した雌雄一対のイッカクの全身骨格標本は、特に貴重なもので、国内では、唯一当館のみが雄と雌の双方を保管しています。



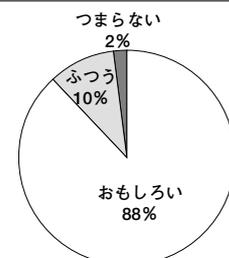
オスのイッカク全身骨格標本



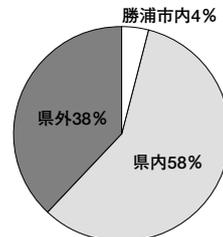
展示のようす



展示の内容は解りやすかったですか？



展示はおもしろかったですか？



回答者居住地

会期日数 37日
 開催日数 29日
 期間入場者 16,929名
 アンケート回答者 246名
 展示資料 標本6点
 パネル16点

これまでの企画展示と比べるとわかりにくいという意見が少し多かったのですが、ふだん目にする機会の少ないイッカクという生物を取り上げた展示内容には、多くの方に満足していただけたようです。

新展示品登場！

ロビーにツチクジラ現る

新たに展示ロビーでツチクジラの展示を始めました。といっても本物ではなく、精巧に作られた10分の1縮尺の模型です。この模型は、昨年度のマリンサイエンスギャラリー「クジラを知る」で展示されたものです。制作は国立科学博物館の協力を得て、ツチクジラの計測値や骨格標本、写真資料などを調査し、彫刻家の円尾博美さんに依頼しました。完成までには約8ヶ月間を要しました。海の博物館の展示ロビーから見えるツチクジラの全身骨格標本からでは想像しにくいツチクジラの外形がこの模型でよくわかると思います。

ケースの中には、展示室をご案内する体験学習指導員2名を模型と同じスケールに縮尺した写真パネルも添えているので、その大きさを想像してみてください。



「クジラを知る」での展示のようす



ロビーのツチクジラ縮小模型

新作ユニット展示2点お披露目

海の博物館の展示室には、各展示パートに関する話題をくわしく紹介する「ユニット展示」があります。この展示は、ときどき交換しており、そのことに気付いているリピーターの方も少なからずいらっしゃることでしょう。これらの多くは研究員の手作りによるもので、今年度は、これまでの研究成果や平成11年度のマリンサイエンスギャラリーで紹介した話題を、二つの新しいユニット展示としてお披露目しました。

『館山海底谷』

館山湾の海底には、深い谷があり、館山海底谷と呼ばれています。その深海底のようすを、水深500mまで到達可能な自走式水中テレビカメラを用いて撮影し、そこで見られたさまざまな深海生物を映像や標本で紹介しています。

『貝の舌の秘密』

貝の仲間だけに見られる歯舌（エサを食べるときに使う器官）についてイラストや電子顕微鏡写真で紹介し、顕微鏡で実物を観察できるようにしました。平成11年度マリンサイエンスギャラリー『貝達の巧みな生活』で紹介した話題がユニット展示になりました。



館山海底谷



貝の舌の秘密

バックヤードツアー 開始

お客様から、「博物館の建物は大きいのに展示室はこれだけ？ 公開していない部分には何があるの？」というご質問をいただくことがときどきあります。その疑問にお答えするために、本年度より、博物館の裏方を紹介する「バックヤードツアー」を始めることにしました。

バックヤードツアーでは、まずは、飼育室を見ていただきます。ここは、展示室の水槽で紹介している生きものの予備をストックしたり、生きものを飼育しながら観察、研究するための部屋です。小さな生きものを小分けにして飼育する水槽から全長1mを超える魚も収容できる大型水槽までいろいろあり、中に入っている生きものとともに、参加された方には興味深くご覧いただいています。

次にご案内するのは、収蔵庫です。収蔵庫は収集された資料を大切に保管する場所で、博物館の心臓部ともいえる部屋です。1階には全長2mを超える生きものも保管できる大型収蔵庫、2階にはアルコール

バックヤードツアーのようす

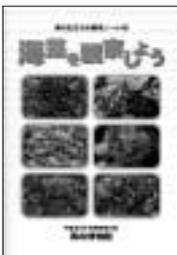


漬けにした標本を保管する液浸収蔵庫、3階には海藻や貝殻などを乾燥させて保管する乾燥収蔵庫があります。ここでは、幾段もの棚に整然と並べられた標本に、多くの方が驚きの声をあげられていました。

限られた時間内で紹介できるのは一部の部屋だけですが、ツアー終了後には「博物館ではこんなこともやっているんだ」といった感想もいただいております。博物館の社会的な役割や裏方でのご仕事をさせていただく行事として来年度も続けていきたいと考えています。

海の生きもの観察ノート② 「海藻を観察しよう」 刊行

② 海の生きもの観察ノート
「海藻を観察しよう」

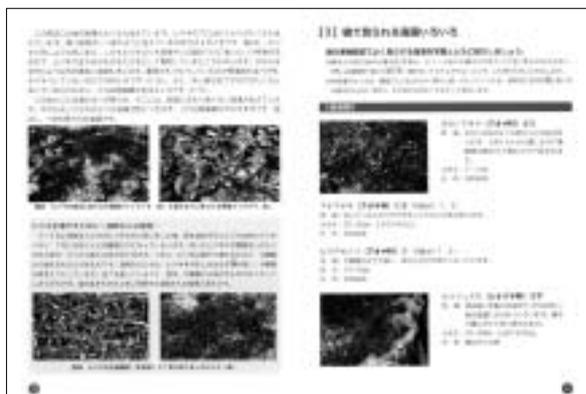


「磯で見られる生きものは？」との問いかけに、多くの人は魚や貝、カニなどの動物をあげるのではないのでしょうか。ところが、磯には動物よりも数多く暮らしている生きものがあります。それが海藻です。

海の生きものを観察する際の手引き書となる冊子を作ろうと、昨年度から「海の生きもの観察ノート」の刊行を開始しました。その第2号として、今年度は「海藻を観察しよう」を発行しました。本書では、特に海の博物館の目の前に広がる磯に焦点を当て、そこで海藻を観察するときのポイントや、潮が引いたときによく見られる

海藻の種類などを写真入りで紹介しています。また、海藻のいろいろな面を知ってもらうために、少し専門的な話題も取り入れ、海藻についての簡単な読み物としても利用できるようになっています。この冊子を読んで、観察にでかけると、よりいっそう海藻に興味を持ってもらえるものと思います。まだ残部がありますので、入手ご希望の方は海の博物館までご連絡ください。

海の博物館前の磯の海藻がたくさん紹介されています



エチゼンクラゲ 勝浦に出現！



大型水槽で泳ぐエチゼンクラゲ



展示室での放映のようす

エチゼンクラゲは、傘の径が最大で2mに達する、日本近海では最大級のクラゲです。このクラゲは、もともと中国大陸沿岸や東シナ海に見られ、時に対馬暖流によって日本海に出現します。昨年夏、「日本海にエチゼンクラゲ大量発生」とのニュースが全国的に報道されたのは、記憶に新しいのではないのでしょうか。この「大量発生」したクラゲは、その後、日本海を北上し、さらに津軽海峡を通り、今度は親潮に乗って太平洋側を南下し始め、昨年11月には三陸沖で発見されました。そしてついに、12月16日、このクラゲが海の博物館近くの松部漁港（勝浦市）で地元在住の吉野守さんによって発見されました。その後の情報によると、この個体以外にも、勝浦市内の他の場所や鴨川市などで発見があったようです。

さて、今回松部漁港で発見されたクラゲは、傘の径が約1mで、比較的大型の個体でした。地元の方の協力のもと、なんとかクラゲを博物館の大型水槽に収容することができました。早速報道機関に公開した後、大型水槽に潜って、写真やビデオの撮影を行いました。その後、研究用の組織を一部切りだし、さらに本体をまるごと、大型のホルマリンタンクに運んで、固定標本として保管しました。クラゲはすでに弱っていたため、来館者の方々に生きたようすをご覧いただけませんでしたが、代わりに、このときに撮影した映像を、しばらくの間、展示室の一面にて放映しました。

エチゼンクラゲはあまりにも大きいため、標本が保存されている機関がほとんどありません。そのため、このクラゲについては、まだわかっていないことがたくさんあります。「大量発生」といっても、標本を保存し、それを調査・研究に使用できるということは、非常に稀なことです。今回の標本は、今後、謎に満ちたエチゼンクラゲについて研究していく上で、非常に貴重な資料となっています。

海の博物館のエチゼンクラゲは、次の報道機関により、新聞紙面やテレビのニュース番組等で紹介されました。

朝日新聞社・共同通信社・産経新聞社・日本テレビ・千葉日報・千葉テレビ・テレビ朝日・フジテレビ・毎日新聞社・読売新聞社（敬称略、五十音順）

伊豆大島魚類調査



ホシキカイウツボが生息する秋の浜

9月3日～6日までの4日間、伊豆大島で魚類の採集を行いました。昨年の無脊椎動物に引き続いての、房総半島と生物相を比較するための調査です。行きには、機体のトラブルのため搭乗機が羽田空港に引き返すアクシデントに見舞われ、3時間遅れのスタートとなりましたが、なんとか予定をこなすことができました。

この調査では、タイドプールを中心に採集を行い、26科に属する43種331個体の魚類を得ました。それらの顔ぶれをみると、チョウチョウウオのなかまが多いことなど、房総半島よりも南方性の魚種が目立つという特徴がありました。これは、無脊椎動物の調査結果とも似通ったものであり、房総半島の生物相を検討する上で、興味深い比較データとなりました。また、転石海岸の波打ち際がホシキカイウツボ（21ページ参照）の生息場所となっていることを明らかにするなど、成果は、生物相の解明にとどまらず、魚類学的にも価値あるものとなりました。

スタッフ紹介

海の博物館の展示や行事は、分館長と9名の研究員、2名の体験学習指導員によって企画、運営されています。また、皆様から寄せられる様々な質問や相談に応じたり、展示室を案内しているのも、これらのスタッフです。

分館長 ^{ほりえ よしかず}堀江 義一 薬学博士

専門分野：菌類分類・生態学、環境微生物学、地球環境学を専門にしています。

研究内容：環境中、特に土壌中のカビ毒生産菌や病原真菌の分布の研究をしています。その中でも^{こうじきん}麹菌のなかまが専門で、調査のために毎年のように中国やブラジルに行っています。これまでに、中国では^{しんきょう}新疆ウイグル自治区、チベット高原、^{うちょうこ}内蒙古などを、ブラジルではアマゾン全域、ギアナ高地、パンタナール、バイヤ州などを調査し、各地の土壌からたくさんの麹菌の新種を発見しています。

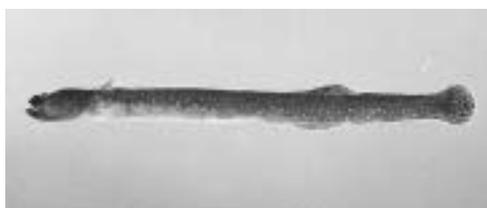
著書等：菌類図鑑（講談社）、ハルピン医科大学客員教授、千葉大学真菌医学研究センター非常勤講師、日本菌学会賞受賞

研究員 ^{あいざわ まさひろ}藍澤 正宏

専門分野：魚の分類を専門分野としています。このほかにイカ、タコ類やクジラ類なども担当しています。これらの生きものであれば、何らかの助言ができると思います。

研究内容：砂利や転石の間に生息しているミミズハゼ類を研究しています。具体的には、野外での調査や、博物館に収蔵されている標本を調べ、国内にどんな種類が生息しているのかを研究しています。また、深海魚についても分類学的研究を行っています。

著書等：日本産魚類検索（東海大学出版会）、日本の海水魚（山と溪谷社）、小学館の図鑑NEO「魚」など



最近、新たに採集されたミミズハゼの一種

研究員 ^{のいち てつひさ}乃一 哲久 学術博士

専門分野：魚類、その中でも^{しちぎよ}仔稚魚（子供）を専門分野としています。魚の子供に関することや、魚類の調査方法、標本作製に関することであれば、質問や相談に応じることができます。

研究内容：プランクトンネットで採れた魚の子供を詳しく調べ、魚種毎に子供の姿や形、生活のようすを明らかにしていくのが私の研究です。魚類学の中でも初期生活史という分野で、現在は、イワシやヒラメ、カレイのなかまを中心に研究を行っています。

著書等：砂浜海岸の仔稚魚の生物学（恒星社厚生閣）、稚魚の自然史（北大図書刊行会）など



カタクチイワシの稚魚

研究員 ^{かわせ ひろし}川瀬 裕司 農学博士

専門分野：専門分野は魚類の行動生態で、魚が海の中でどのような生活をしているのかを実際に海に潜って調べています。

研究分野：主な対象はカワハギのなかまで、どんなところにすんでいて、いつ、どのように産卵するのか、また産卵した後どのような子育てをするのかということを手で観察します。その結果、種類によってさまざまな行動が見られることがわかってきました。現在、オーストラリアのカワハギ類を調べています。

著書等：魚の自然史（北大図書刊行会）、日本動物大百科（平凡社）など



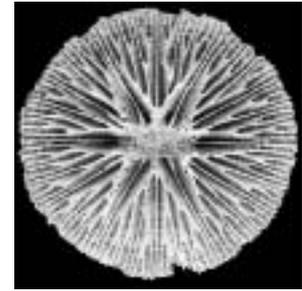
ヨソギのメスによる卵保護

研究員 ^{たちかわ ひろゆき} 立川 浩之 農学修士

専門分野：イシサンゴの仲間を専門分野としていますが、このほかにカイメン、貝、ウミウシ、ウニ、ヒトデ、ナマコ、ウミガメなども担当しています。

研究内容：イシサンゴの中でも、非造礁性^{ひぞうしょうせい}の種を研究しています。このなかまはサンゴ礁を作る造礁性の種ほど一般には知られていませんが、種数では造礁性の種にも匹敵します。現在、県内に生息する種を潜水調査などで調べる一方、各地の大学や博物館の標本を調べ、どんな種類がどこにいるのかを解き明かそうとしています。

著書等：フィールドガイド小笠原の自然（古今書院）、北マリアナ探検航海記（文一総合出版）など

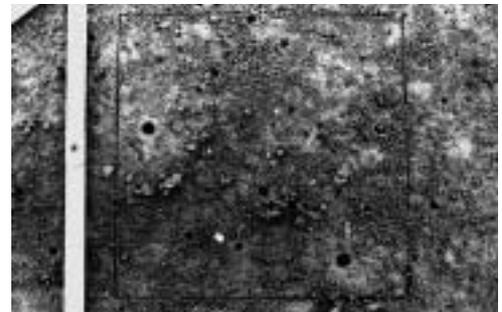


フルイサンゴの一種の骨格標本

研究員 ^{たかやま じゅんこ} 高山 順子 理学修士

専門分野：干潟にすむカニの生態を調べています。

研究内容：チゴガニは、泥干潟にひとりひとつの巣穴を掘っており、互いにとても近接して生活しているため、けんかをしたり、なわばりを持ったりしています。このようなカニの行動を観察することによって、カニの社会のしくみを解き明かそうとするのが私の研究です。また、最近では、海の博物館のまわりにどのような磯の生きものがいて、それらが季節とともに、あるいは年月とともに、どのように変化していくのかについても、興味をもって観察しています。



干潟の表面に空いたチゴガニの巣穴

研究員 ^{きくち のりお} 菊地 則雄 水産学修士

専門分野：海の藻類、海藻が専門です。海藻に関する質問であれば、お答えできます。

研究内容：主に二つの研究を行っています。一つは、「海苔^{のり}」として食用になるアマノリ類を含む原始紅藻の種類や生活に関する研究です。このなかまには絶滅が心配される種もあり、最近では、その生育地や生活の特徴なども調査しています。もう一つは、千葉県にどのような海藻が生えているのか？を調べることです。この研究では、県内各地で採集した海藻を、博物館に標本として保管し、海藻の分布に関する情報を蓄積しています。

著書等：藻類の生活史集成第2巻褐藻・紅藻類（内田老鶴圃）



絶滅危惧種カイガラアマノリ

研究員 ^{おくの じゅんじ} 奥野 淳兒 農学修士

専門分野：エビの分類を専門としています。名前の解らないエビがあれば、ご相談下さい。

研究内容：スキューバダイビングの普及に伴い、一般の方々がエビやカニの水中写真を撮影する機会が増えてきました。ところが、それらの中には分類学的な研究がなされていない種が数多く含まれています。原因の一つには、研究者が見過ごしてきたことが挙げられ、私は、その様な標本を収集し、分類学的な研究を行っています。特に、カクレエビ類やサラサエビ類などの小型エビ類が専門で、房総半島周辺だけではなく、伊豆諸島や琉球列島でも調査を行っています。

著書等：エビ・カニガイドブッケー伊豆諸島・八丈島の海から（TBSブリタニカ）



イソギンチャクの上ですむアカホシカクレエビ

研究員 ^{やなぎ}柳 ^{けんすけ}研介 水産学博士

専門分野：イソギンチャク類を含む刺胞動物しほうどうぶつに関する質問や相談に応じることができます。また、無脊椎動物全般に関して、標本の作製や観察についても助言が可能です。

研究内容：日本産のイソギンチャク類には、まだ名前すら付いていない種類も少なくありません。私は、日本近海に生息するイソギンチャクのなかまを明らかにする研究の一環として、現在は、潮間帯のヨロイイソギンチャクの仲間や、深海性のイソギンチャク類を対象とした分類学的研究を行っています。



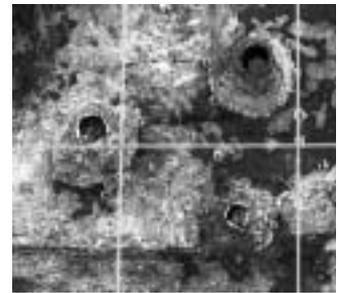
日本海溝調査船内での標本作製作業

著書等：有明海の生きものたち（海遊社）など

研究員 ^{むらた}村田 ^{あきひさ}明久 理学修士

専門分野：大学では動物行動学を学び、フジツボ類の繁殖や生態を専門としています。

研究内容：フジツボは、一見貝のようにも見えますが、カニなどと同じ甲殻類のなかまです。岩などの基質に固着して生活しており、移動することはできません。また、フジツボは、一匹がオスでもメスでもある同時的雌雄同体で、交尾をして繁殖をおこないます。移動できないのに交尾をおこなうので、近くに他の個体がいないと繁殖ができません。このような独特な特徴を持つフジツボ類が、どのように繁殖をおこなっているのかを調べています。

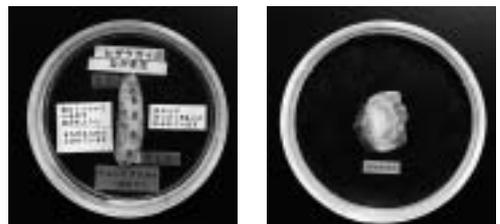


クロフジツボ

体験学習指導員 ^{たかはし}高橋 ^{あき}亜紀

活動内容：展示解説、体験コーナーの企画と実施、拡大カメラのサンプル製作が担当です。

拡大カメラのサンプル製作：拡大カメラのサンプルをできるだけシンプルな物にリニューアルしてみました。みんなが今以上に興味を持つ物ができないかと考えての工夫です。説明を付けずに魚の鱗うろこやウニの棘とげなどをシャーレに接着しただけのことですが、その結果、サンプルをじっくりと見ている方が増えたように思います。なかには自分の手を映して喜びとも悲しみともつかない叫び声をあげている方もいますが、「じゃあ手はどう映るのかしら？」と興味をもって行動した結果ではないのでしょうか。私たちがいくら熱心に説明しても、興味のない方には、ただのお節介に過ぎません。これからも、自然な衝動にかられ「海のことについてもっと知りたい」と思うきっかけを提供し続けて行きたいと思います。



(旧)



(新)

体験学習指導員 ^{たかなし}高梨 ^{まゆみ}真由美

活動内容：展示解説、体験コーナーの企画と実施を担当しています。

体験コーナーの企画と実施：展示室をよく見ると、海にはユニークな模様をもった生きものがたくさんいることに気が付きます。私は拓本を習ったことがあり、同じ要領で海の生きものの模様を写し取れないだろうかと考えて、ヒトデやナマコの乾燥標本、ウニの殻など何種類もの素材を、道具や技法を検討しながら試してみました。そうして生まれたのが体験コーナーの第2弾メニュー「コーラルプリントをしよう」です。コーラルプリントとは、サンゴの骨格の構造を布に写し取る染物で、これなら、生きものが苦手な女性の方にも海に興味を持ってもらえるはず。みなさまも、ぜひ、体験コーナーに参加してみてください。



コーラルプリント

平成14年度の活動記録

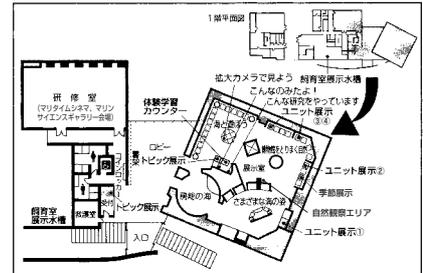
本年度の海の博物館の活動を展示、教育普及、資料収集、調査研究の順に紹介します。

1 展示活動

海の博物館では、常設展示、マリタイムシネマの上映、企画展であるマリンサイエンスギャラリー一からなる展示活動を通して、来館者のみなさまに房総半島を取り巻く海の自然を紹介しています。

1-1 展示の交換・更新

海の博物館の展示室は、いつも同じではありません。展示の一部を定期的に交換したり、最新の情報を紹介するコーナーがあったり、いつ来てもどこかが新しい展示になっています。



展示室平面図

(1) ユニット展示、季節展示、自然観察エリアの展示交換

・ユニット展示

「さまざまな海の姿」と「博物館をとりまく自然」のコーナーでは、展示品の一部をユニット方式で交換しながら展示しています。本年度は右の4つのタイトルのユニットを交換しました。

交換前のタイトル	→	交換後のタイトル (交換日)
① 魚の子育て	→	館山海底谷 (平成14年7/5)
② 北限の植物	→	海辺のアジサイ・山のアジサイ (平成14年5/31)
③ わが家は他人	→	貝の舌の不思議 (平成14年9/6)
④ 巻貝にはえる海藻	→	ペンキのような海藻 (平成14年9/11)

・季節展示

「博物館をとりまく自然」のコーナーでは、それぞれの季節に博物館の周辺で実際に見られる生きものを紹介するために、季節にあわせて植物や昆虫の展示を交換しています。また、それぞれの季節のトピックスも紹介しています。



夏のトピックス
「博物館のまわりのセミのぬけがら」



展示の交換作業

・自然観察エリア

当館では目の前の磯と鵜原理想郷を自然観察エリアとして、みなさまが自ら自然観察を行うことを推奨しています。自然観察エリアのようすは、研究員が定期的に調査し、その情報を展示室内のホワイトボードで紹介しています。

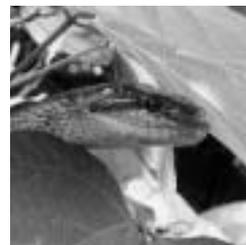
理想郷ホワイトボードの主な更新記録	
平成14年	
4/3	クロマツの花、ウランソウなど
4/19	ハマエンドウ、トペラの花など
5/2	マルバウツギ、ユキノシタなど
5/17	ガマズミ、ハマボスなど
5/31	ヒメヒオウギズイセン、ヤマユリなど
6/14	ガクアジサイ、ネジバナなど
7/2	カイコウズ、ボタンボウフウなど
7/28	スカシユリ、カワラナデシコなど
8/16	ハマカンゾウ、ノシランなど
9/4	ツリガネニンジン、センニンソウなど
9/18	ヒガンバナ、ツルボなど
10/4	台風の影響
11/7	ツツブキ、ヤツデなど
11/27	インギク、ヤマラッキョウなど
12/23	サルトリイバラの実、トペラの実など
平成15年	
1/18	スイセン、オオバグミの実など
2/9	オオイヌノフグリ、ナスナなど
3/9	ユキノシタ、ノゲシなど



ハマダイコン



ハマカンゾウ



アオダイショウ



ヤブツバキ

(2) こんなのみたよ！

今年度も、地元の方々や遠方から遊びに来てくれた人達などから多くの情報が寄せられ、いろいろな面白い生きものたちを紹介しました。たとえば、アケウスやコブカラッパは、磯の観察エリアでは研究員も見つけたことのなかった、変わった姿のカニです。このコーナーの情報は次々に更新されていきますが、これまでに登場したものはファイルに入れてロビーの本棚の「こんなのみたよ！」ファイルで見ることができます。「こんなのみたよ！」はみなさまが作る展示です。何か面白いものを見つけたら、ぜひ海の博物館に教えてください。

平成14年度に紹介した話題

57 エサキモンキツノカメムシ	68 クロスジラッパウニ
58 アカグツ	69 モクスガニ
59 オオツノヒラムシ	70 タマミルウミウシ
60 アケウス	71 ツメタガイ
61 コブカラッパ	72 ノコギリガザミ
62 モリアオガエル卵	73 ニホンリス
63 ヒラサザエ	74 エチゼンクラゲ
64 メジロの巣	75 ヤシの実
65 タイマイ	76 ハイイロウミツバメ
66 ハスノハカシパン	77 ガラスカイメンのなまこ
67 オオシロピンノ	(数字は開館時からの通し番号です)

「こんなのみたよ！」ができるまで

- ①漁師さんの網に見慣れないものがかかりました。はたまた、子どもたちが磯遊びをしていて変わったものを見つけました。などなど……。
- ②海の博物館に問い合わせの連絡が入ります。
- ③正確に回答するため、実物や写真を提供していただくようお願いしています。
- ④研究員が、その正体を調べて回答し、博物館に記録を残します。
- ⑤寄せられた情報をもとに「みたよカード」を作成し、「こんなのみたよ！」のコーナーに掲示します。



子どもたちからの情報の提供



できあがった「みたよカード」

展示こぼれ話① [わりばしで作った魚たち]

四街道市在住の小池正孝さんは、使用済みのわりばしを材料に、寄せ木細工で魚などの作品を数多く作られています。普段何気なく使い捨てられているわりばしを、生き生きした魚としてよみがえらせている小池さんの作品は、多くのマスコミ等にも取り上げられ、非常に高い評価を得ています。今年度、小池さんのご厚意により、その作品の一部を海の博物館で展示しました。わりばしで作ったとは思えない精巧な作品は、ご覧頂いた方々に大好評でした。



小池正孝さん



わりばしで作られたウツボ



展示のようす

(3) こんな研究をやっています

海の博物館の研究者は、それぞれの専門分野に関する調査研究を行い、その成果を学会や学術雑誌で発表しています。そのような活動を積極的に行うことにより、研究員個々の知識が深まり、より充実した展示や教育普及活動が可能になります。しかし、研究そのものは、一般の方の目にはなかなか触れる機会がありません。このコーナーでは、その内容を写真や図表などを使って分かりやすく紹介しています。

平成14年度に紹介した話題

堀江義一 分館長「海の環境問題」(平成14年5/25～7/2)

柳 研介 研究員「ベリルイソギンチャクの繁殖期の推定」

(平成14年7/3～平成15年 2/4)

村田明久 研究員「フジツボの長期調査」(平成15年2/5～3/31展示中)



「ベリルイソギンチャクの繁殖期の推定」

(4) トピック展示

トピック展示は、展示室の体験カウンターや受付のカウンターで、目の前の海から採集してきたばかりの生きものや、小さくて展示室の水槽では見えにくい生きものなどを、小さな水槽やガラス容器に入れて紹介する限られた期間だけの展示です。本年度は、以下の通り17の話題について、紹介しました。夏には、刺されると危険なクラゲ類を多く展示し、海に出られるお客様に注意を呼びかけました。

平成14年度に紹介した話題

ゴバンノアシ (平成13年 11/30～平成14年 4/11)

ヒメツチハンミョウ (平成14年 4/3～4/9)

カツオノエボシ (平成14年 5/5、7/14～7/16、7/19～7/20、8/8～8/9)

セノテヅルモヅル (平成14年 5/10～5/11)

ウミウシ類 (平成14年 5/14～5/22)

ベンケイガニ (平成14年 7/7～10/26)

アカクラゲ (平成14年 7/14)

ギンカクラゲ (平成14年 7/19～7/20、8/8～8/9)

トビウオ類の稚魚 (平成14年 7/20)

南の島のヤドカリ (平成14年 10/12～12/25)

エチゼンクラゲ (平成14年 12/18～平成15年 1/5)

ケスジヤドカリ・他 (2003/01/02～2003/02/22)

ヒロウミウシ (平成15年 2/20～2/23)

メリバウミウシ (平成15年 3/16～3/19)

コンゴウフグ (平成13年 11/3～平成15年 3/31展示中)

ヤドカリとイソギンチャク (平成15年 1/2～3/31展示中)

ウナギのこども (平成15年 3/20～3/31展示中)

コンゴウフグの幼魚

頭とお腹の後ろにとげがあるフグのなかまです。登場したのは平成13年の11月で、非常に人気があるためロングランで、今も展示しています (平成15年3/31現在)。餌をよく食べ、大きくなったので、水槽も一回り大きな物に交換しました。



コンゴウフグの幼魚

セノテヅルモヅル

海藻のように見えますが、ウニやヒトデなどと同じ棘皮動物というグループの一員で、クモヒトデのなかまです。鴨川での調査の際、採集されました。



セノテヅルモヅル

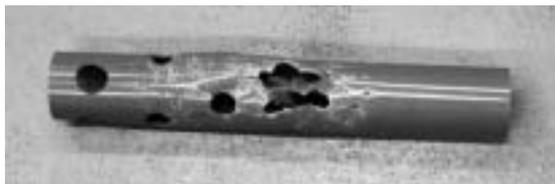
(5) 飼育室の展示水槽

飼育室の窓際に設置した水槽では、地元の漁師さんなどから提供された魚やカニ類、研究員が採集してきたヒトデ類やサンゴ類などをご覧頂いています。

本年度の目玉は、なんと言ってもアミメノコギリガザミです。このカニは、11月に市原市五井在住の相川 照さんから提供していただきました。アミメノコギリガザミは、普通、沖縄島以南のマングローブの湿地に生息していますが、相川さんから提供していただいた個体は東京湾で採れたもので、資料的価値が高いものです。博物館では、当初、すぐさま標本にして保管するつもりでしたが、大きな珍しいカニを皆様に見ていただこうと、飼育室の水槽で3月末まで展示しました。



大きなハサミを振りかざすアミメノコギリガザミ



アミメノコギリガザミは気性が荒く、展示水槽の配管を大きなハサミで壊してしまいました

1-2 マリンサイエンスギャラリー（企画展示）

マリンサイエンスギャラリーは、海の生きものを深く掘り下げて紹介する当館の企画展示です。

- (1) ヤドカリの世界 （2～3ページ参照）
- (2) 収蔵資料展 イッカクー長い牙を持つクジラー（4ページ参照）
- (3) 平成13年度マリンサイエンスギャラリー 補記

昨年度のマリンサイエンスギャラリー『クジラを知る』では、海のは乳類「クジラ」にスポットをあて、海での生活に適した体のつくりやしぐまについて、標本や写真で紹介しました。

会 期：平成14年2月26日（火）～4月7日（日）

開催日数：36日間

期間入場者：25,860名



会場のようす

展示こぼれ話②[海の博物館の記念スタンプが卒業論文に！]

夏の頃、熱心に展示室を見学している女性がいきました。彼女は信澤智恵さん、千葉工業大学工業デザイン学科の4年生で、スタンプをテーマに卒業論文を書いているとのことでした。

信澤さんは、200もの博物館の記念スタンプを調べた中で、海の博物館をモデルケースとして研究を進められ、まったく新しいタイプのスタンプを提案してくれました。それは、『記念スタンプの台紙が手さげバッグになっており、スタンプを押した後は、博物館の解説書や解説シートを入れて持ち帰れる』というものです。

わたしたちは、その奇抜な発想と素敵なデザインに、たいへん刺激を受けました。



当館の記念スタンプ



信澤さんの卒業論文と作品

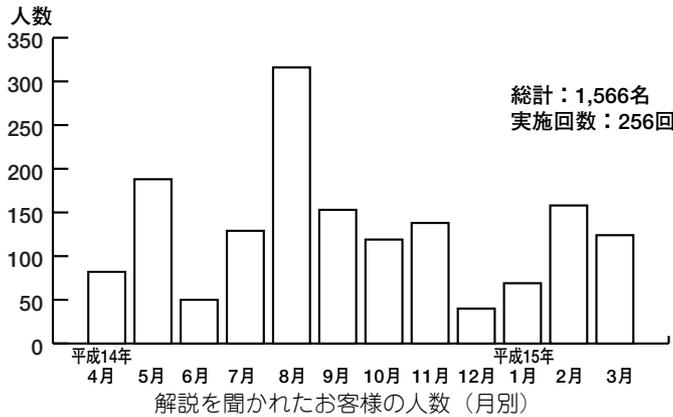
1 - 3 体験学習指導員の活動

(1) 展示室の歩き方

「展示室の歩き方」は、体験学習指導員が展示室一周をわかりやすく案内する展示解説です。今年度は昨年度に引き続き、1日3～6回、各10分の時間設定で解説を行いました。解説を聞かれた人数を月別に見ると（下図）、来館者の多い5月や8月に人数も多いことがわかります。一方で、必ずしも来館者の多くない9月や2月にも、解説を希望されるお客様が多かったことがわかりました。「展示室の歩き方」は毎日行っていますので、どうぞご参加ください。



展示室の解説



マリンサイエンスギャラリーの解説

(2) 海の体験コーナー

「海の体験コーナー」は、展示室の体験カウンターにおいて、みなさまにさまざまな海にまつわるメニューにチャレンジしてもらうコーナーです。これは当日申し込みの行事（希望者が多いときはその場で抽選）で、ご案内するのは2名の体験学習指導員です。今年度は、このコーナーのスタート時からのメニューである「海藻おしぼを作ろう」に加え、新たに二つの新メニュー（1ページ参照）が加わりました。



「海藻おしぼを作ろう」

海の体験コーナー参加状況	
海藻おしぼを作ろう（4月より）	回数26回 参加者145名 見学者359名
コーラルプリントをしよう（5月より）	回数21回 参加者128名 見学者211名
シラスをしらべよう（7月より）	回数14回 参加者65名 見学者153名
合計	回数61回 参加者338名 見学者723名

展示こぼれ話③ [ロビーでマリタイムシネマ上映]

マリタイムシネマは、海の自然や生きものを紹介する海の博物館オリジナルの映像で、ふだんは研修室で上映しています。一方、当館の企画展であるマリンサイエンスギャラリーも研修室で開催するため、これまで、この期間中はマリタイムシネマをご覧いただくことができませんでした。そこで、ロビーの一角にモニターを設け、マリンサイエンスギャラリーの期間中でもシネマを上映できるようにしました。



ロビーでもシネマをご覧いただけます

1 - 4 博物館への手紙

「博物館への手紙」は、皆様からのご意見やご要望、海の生きものに関するご質問などをお寄せいただく窓口で、平成11年12月に設置しました。ご利用方法は、展示ロビーに備え付けてある用紙に質問事項などを記入し、横の箱に投函するだけです。いただきましたご意見は、これからの博物館活動の参考にさせていただいています。また、ご質問などについては、連絡先を記入されている方には、個別にお返事を差し上げています。本年度は、738通のお便りをいただき、内訳は、ご意見・ご感想が682通、質問が15通、その他が41通でした。以下には、その中からいくつかを紹介いたします。

(1) ご意見・ご感想

- ・子供達も大喜びで、とても楽しく勉強になりました。こんな施設が無料だなんて、嬉しく思います。(K.Mさん 男性) → 無料については、多くの方々から賞賛と応援のご意見がありました。反面、「有料化すべき」との意見もありました。
- ・とても楽しく過ごせました。女子校で教員をしているのですが、生徒がなかなか海の良さをわかってくれません。是非つれて来たいと思いました。特にビデオの上映時間が絶妙です。(A. Nさん 男性)
- ・展示物の整備状況がすばらしく印象的でした。いたみの見られる博物館が多い中きっちりした状況に感動です。(無記名)
- ・とてもきれいで、今の時期の展示も手書きで丁寧に記入されていて見易く、興味深く観覧できました。(Y. Nさん 女性)
- ・海藻や貝が虫眼鏡で見れるとこと、アワビやカニの足がズームで見られよかったです。本物の魚の皮がさわれるのも。(無記名)
- ・見たことのない生きものや聞いたことがあるだけで実際には見たことがなかった物が展示してあり、すごかったです。解説も分かり易くて、また来たいと思いました。標本がとても綺麗でした。(A. Iさん 中学生) → 解説を担当する体験学習指導員の名前を挙げてお礼を書いて下さるお客様も多々いらっしゃいます(15ページ参照)。
- ・自分の知っている魚や知らない魚を見ました。中でも「コンゴウフグ」の幼魚が大きくなり、とてもかわいかったです。(Y. Nさん 小学生) → 展示記録を更新中です(13ページ参照)。
- ・たくさんの展示を見て大変勉強になりました。生きものの寿命や食べ物などが説明の中にあるともっと身近なものになると思います。見学する順路が少しわかりにくいような気がします。はじめに右回りなのか左回りなのか、目につきやすい所に表示がほしいです。(Y.Tさん 女性) → ロビーの案内板を改修する予定です。
- ・展示室が小さくて、生きものの展示も少ない。(無記名) → 当館は、博物館を取り囲む海辺の自然そのものを楽しんでいただくために造られた施設で、館内の展示だけを見ていただく都市型の博物館や水族館とは趣が異なります。次回いらした際には、是非、外に出て自然の中で生きものを観察してみてください。

(2) 質問

Q. 出世魚ブリの名称を教えてください。(北海道旭川市の男性から)

A. 出世魚とは、成長にしたがって呼び名が代わる魚で、ブリもその一つです。地域によって大きさと呼び方が異なる場合がありますが、主に関東では、体長が7cm以下のものをモジャコ、15cm前後のものをワカシ、40cm前後のものをイナダ、50cm前後のものをワラサ、60cm以上のものをブリと呼んでいます。関西では、関東でイナダという40cm前後のものをハマチと呼んでいます。大きさによって呼び名が代わるだけで正式な和名が代わるわけではありませんが、水産業では、呼び名で大きさがわかるため非常に便利です。ブリの他にスズキやボラも大きさによって呼び名が代わる魚です。



ブリ(ワカシ)

Q. 展示室に入ってすぐ上にある鳥は実際の大きさですか。(東京都品川区の女性から)

A. 入ってすぐ上、天井から見下ろしている大きな鳥は、コアホウドリといっています。このコーナーにある動物や植物はすべて本物から作ったはく製や標本で、実際の大きさも変わりません。



展示室「房総の海」コーナー

2 教育普及活動

教育普及活動は、各研究員がそれぞれの専門性を生かして、海のすばらしさや生きものの魅力を皆様に伝える活動です。平成14年度の活動としては、一般の方々を対象とした講座、観察会、フィールドトリップ、バックヤードツアーならびに教員や児童・生徒を対象とした海の環境学習研修会と野外実習授業を行いました。また、この他に、各種の広報や、刊行物の配布、出張講演なども行いました。

2-1 講座・観察会・フィールドトリップ

本年度は11回の講座と16回の観察会、23回のフィールドトリップを実施しました(20ページ参照)。このうち、フィールドトリップについては、新たな試みとして博物館の裏方を見学するバックヤードツアー(6ページ参照)を開始したほか、開催日を土日に集約し、「博物館周辺の生きもの」と「勝浦の地質と地形」は廃止しました。また、別途、子ども会などの要請に応じて団体を対象としたフィールドトリップを7回実施しました。



講座「親と子の海の生きもの観察・実験教室」



観察会「流れ藻に付く稚魚の観察会」

2-2 海の環境学習研修会・野外実習授業

海の環境学習研修会ならびに野外実習授業は、学校教育において導入された「総合的な学習」への博物館としての支援プログラムです。

(1)海の環境学習研修会



海の環境学習研修会は、先生方を対象に、7月12日、25日、26日の3回行いました。参加者は、それぞれ22名、21名、10名でした。内容は、子どもたちを連れて海辺での活動を計画、実施する際の留意点や、生きものの観察方法、生きもの名前の調べ方などで、各回とも講義と実習を交えての研修を行いました。

(2)野外実習授業



野外実習授業は、先生方と当館研究員が共同で行う校外学習です。本年度は、15校から申し込みがあり、日程が調整できた11校と共同開催しました。授業の多くは、当館地先海岸での海の生きものについての学習でしたが、何校かは、研究員が申し込み校へ出向いて、子どもたちの地元の海での授業となりました。

2-3 広報

(1) 広報

平成14年度は、博物館の行事予定などを県民だよりや各種広報誌などにおいて紹介した他、他機関からの要請に応じ、依頼先に出向いての講演や海藻おしば作りの指導などを行いました(右表)。

- ・平成14年 4/19~4/21 「旅フェア2002」 場所：幕張メッセ
内容：海藻おしば作りと海の生きものタッチプールの実施 演者：菊地則雄他5名
- ・平成14年 11/16 「千葉学講座」講演 場所：県立美術館
演題：千葉県のエビ・ヤドカリ・カニ 演者：奥野淳児
- ・平成14年 11/17 「鴨川青年の家祭り」 場所：鴨川青年の家
内容：海藻おしば作り体験 演者：菊地則雄、川瀬裕司
- ・平成15年 2/2 「浦安市郷土博物館主催講演会」 場所：海の博物館
演題：生きものとしてのノリ 演者：菊地則雄
- ・平成15年 3/21 「八丈ビジターセンター講演会」 場所：東京都八丈ビジターセンター
演題：八丈島のエビ、カニ 演者：奥野淳児
- ・平成15年 3/25 「JTBエコジュニアプログラム」 場所：東京湾アクアライン海ほたる
演題：東京湾アクアライン周辺の海 演者：川瀬裕司

(2) ホームページ

海の博物館のホームページには、施設紹介や行事案内、研究活動の内容、収蔵資料などの他、博物館周辺の自然の様子なども紹介しています。ぜひ一度お立ち寄りください。

海の博物館のホームページ <http://www.chiba-muse.or.jp/UMIHAKU/index.htm>

(3) 刊行物

今年度は、「海の生きもの観察ノート②」(6ページ参照)や、日本財団の助成を受けてマリンサイエンスギャラリー「ヤドカリの世界」展示図録(3ページ参照)などを刊行しました。前者は、「磯の生きもの観察会実施マニュアル(平成12年度刊行)」、「海の生きもの観察ノート①磯で見られるエビ・ヤドカリ・カニ(平成13年度刊行)」とともに残部がありますので、入手ご希望の方は海の博物館までご連絡ください。

刊行物一覧

- ・展示解説シート18 館山海底谷ー海底地形と生きものたち
- ・ワークシート12 たてやまかいていこくの生きもの
- ・マリンサイエンスギャラリー「ヤドカリの世界」関連
ポスター、リーフレット、展示図録、展示解説シート「1 ヤドカリはどんな生きもの?」、「2 ヤドカリのオスとメス」、「3 ヤドカリとイソギンチャクはなかよし」、「4 貝殻に入らないヤドカリーカンザシヤドカリの風変わりな生活」、「5 貝殻をめぐるヤドカリのけんか」、「交尾前ガーディング」、ワークシート「しおだまりのヤドカリ」
- ・収蔵資料展「イッカクー長い牙を持つクジラー」関連
リーフレット、展示解説シート「イッカクの骨」、ワークシート「イッカクの骨を調べてみよう」
- ・海の生きもの観察ノート②「海藻を観察しよう」

2-4 参加者の声

海の博物館では、今後の参考とさせていただくために、各種行事の後にアンケートを実施しています。また、今回は、当館行事を利用しての感想を4名の方に寄稿していただきました。

観察会「水中メガネで海の生きものを観察しよう」に参加して

勝浦市立興津小学校4年 鈴木 康太郎

ぼくは、海で泳いだことはあっても、もぐって海の中をのぞいたことはありませんでした。はじめて、水中メガネとシュノーケルを使って海の中を見ました。少し暗くて海ソウがゆれていました。しずかに見ていると、海ソウの中に小さな魚を見つけることができました。磯では、岩の下にかくれているウツボを見つけたり、きれいなめずらしい魚と出会いました。泳ぐのも楽しいけれど、海の中をのぞいて見るのもとてもおもしろかったです。

講座「親子で魚拓を作ってみよう」に参加して

千葉大学教育学部附属小学校 4年 松下芳之

僕は、夏休みにお父さんとこの講座に参加して、初めて魚拓を作りました。使った魚はチダイとブリです。作り方は新聞紙の上に魚を置き、うすい墨、こい墨を順番にぬっていく。こい墨は魚の色のこい部分にぬる。その上に半紙のをせ、手でする。形がとれたら最後に目を入れて、まるで生きているような魚拓の完成！全部で11枚刷りました。とっても楽しくて、今度は自分で釣った魚でやってみたいと思います。

「海の世界学習研修会」に参加して

千葉県立長狭高等学校 教員 渡邊 雅之

生物担当の教員という立場から、授業実践の参考になればと思い参加した。

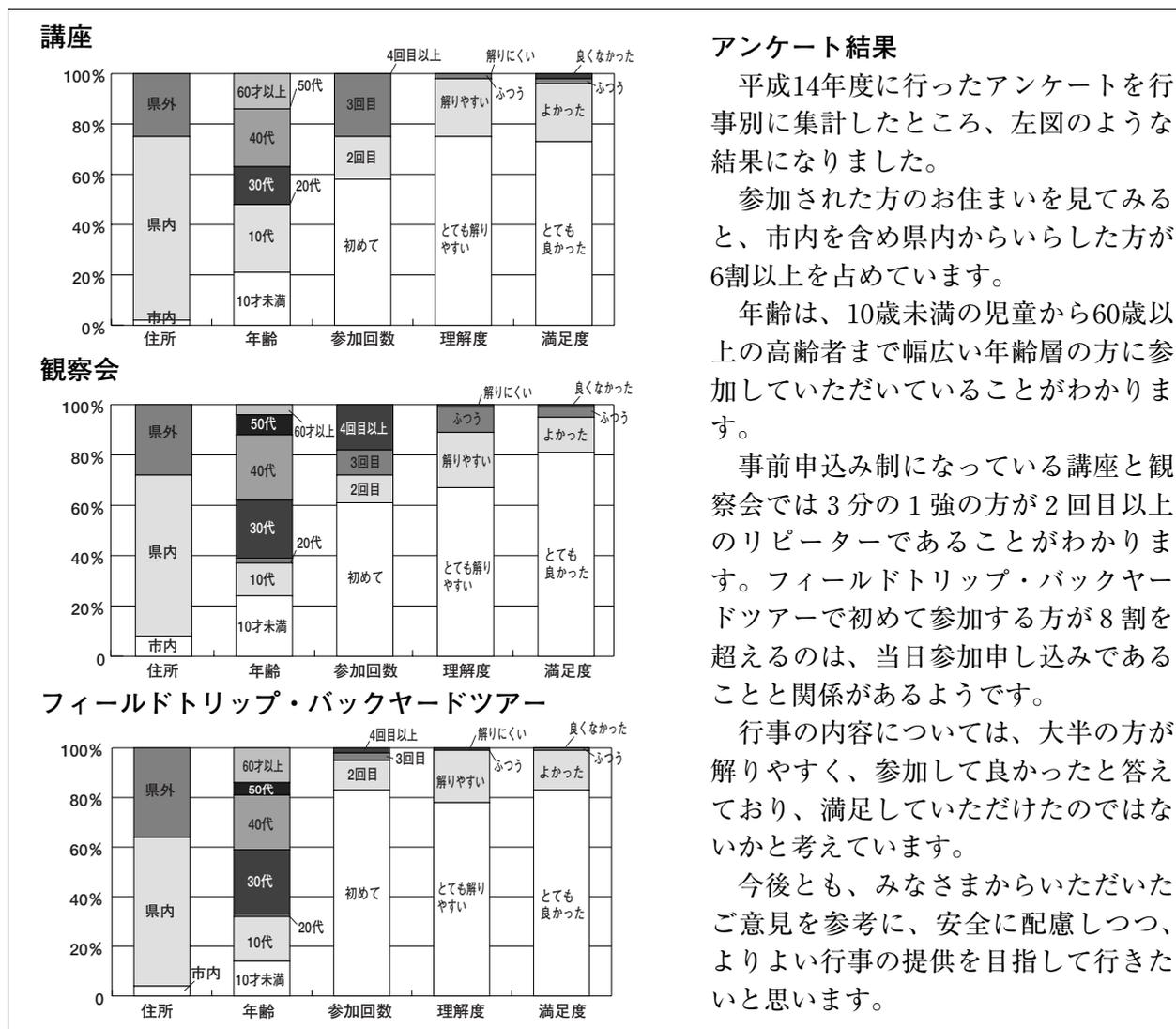
実習では「基礎編」の磯観察と、「応用編」の生態分布調査を行った。同じフィールドであっても、内容を変えることによって生徒の多様な適正に合った実習が可能であることが実感でき、また、調査のまとめでは考察することの難しさが生徒の立場になって知ることができた。

有意義な研修の提供に感謝します。

「野外実習授業」を利用して

目黒区立興津健康学園 教員 岡田 信之

興津の磯で行う「磯観察」は、本学園になくてはならない行事です。生き物と仲良くなるには、直にふれあうのが一番！見たこともないような不思議な動物たちにふれ、博物館の方々に丁寧に説明していただくことで、子供たちは今までの何十倍も生き物と仲良くなれます。そして、生き物たちを大切にしようという強い気持ちを生徒たちに持たせませす。これが本当の環境教育だと、私は思っています。



2-5 実施結果一覧

(1) 講座

実施日	タイトル	講師	参加者	内容
平成14年 4/28	親子で磯の生きものを観察しよう1	川瀬裕司	17名	磯で採集した生きものを家族単位で観察しました。
平成14年 5/12	ウミウシを調べよう	立川浩之	18名	観察会で採集したウミウシを顕微鏡で観察しました。
平成14年 5/26	親子で磯の生きものを観察しよう2	村田明久	17名	親子で磯の生きものを観察しました。
平成14年 7/ 6	海辺の野鳥	桑原和之	4名	スライドを使用して海辺の野鳥を紹介しました。
平成14年 7/ 7	海鳥	桑原和之	11名	スライドを使用して海鳥を紹介しました。
平成14年 8/ 2	親子海藻おしば教室1	菊地則雄	4名	親子で海藻おしば作りを体験しました。
平成14年 8/ 2	親子海藻おしば教室2	菊地則雄	13名	親子で海藻おしば作りを体験しました。
平成14年 8/ 3	海藻おしばを作ろう	菊地則雄	10名	海藻おしば作りを通して海藻について学びました。
平成14年 8/ 4	親子で魚拓をつくろう	乃一哲久	13名	親子で共同して魚拓を作りました。
平成14年 8/11	親子海の生きもの観察・実験教室	高山順子	14名	イソクズガニのカモフラージュ実験などをしました。
平成14年11/10	クジラの雑学講座	藍澤正宏	8名	クジラのヒゲや歯を観察し餌の取り方を紹介しました。
平成14年12/ 6	深海の生きものたち	柳 研介	7名	深海生物を標本やスライドで紹介しました。

(2) 観察会

実施日	タイトル	講師	参加者	内容
平成14年 4/28	親子で磯の生きものを探そう1	川瀬裕司	21名	家族単位で磯の生きものを探しました。
平成14年 4/29	春の植物	田中助夫	6名	鵜原理想郷で春に見られる植物を観察しました。
平成14年 5/12	ウミウシを探そう	立川浩之	18名	博物館地先の磯でウミウシを観察、採集しました。
平成14年 5/18	鵜原理想郷周辺の地層	高橋直樹	6名	鵜原理想郷周辺で見られる地層を観察しました。
平成14年 5/26	親子で磯の生きものを探そう2	村田明久	17名	親子で磯の生きものを探しました。
平成14年 7/ 7	船に乗って海鳥を観察しよう1	桑原和之	10名	漁船に乗って勝浦沖で見られる海鳥を観察しました。
平成14年 7/13	勝浦のエビ・カニ・ヤドカリ	奥野淳兒	19名	博物館地先の磯でエビやカニなどを観察しました。
平成14年 7/21	流れ藻に付く稚魚の観察会	乃一哲久	10名	漁船に乗って海面を漂う流れ藻と稚魚を観察しました。
平成14年 7/27	水中メガネで海の生きものを観察しよう	柳 研介	25名	使い方の練習後、海の生きものを観察しました。
平成14年 7/28	干潟へ行こう	高山順子	22名	夷隅川河口の干潟で生きものを観察しました。
平成14年 8/10	親子で磯の小魚を探そう	藍澤正宏	15名	流れ藻についた稚魚を観察することができました。
平成14年 8/24	船に乗って海鳥を観察しよう2	桑原和之	7名	漁船に乗って勝浦沖で見られる海鳥を観察しました。
平成14年 8/25	夏の植物	田中助夫	8名	鵜原理想郷で夏に見られる植物を観察しました。
平成14年11/ 4	秋の植物	田中助夫	11名	鵜原理想郷で秋に見られる植物を観察しました。
平成15年 2/ 9	冬の植物	野口昭造	5名	鵜原理想郷で冬に見られる植物を観察しました。
平成15年 3/23	食べられる海藻を探そう	菊地則雄	18名	勝浦の磯で食用になる海藻を観察しました。

(3) フィールドトリップ

磯の生きもの観察

実施日	講師	参加者
平成14年 4/14	菊地則雄	13名
平成14年 4/27	川瀬裕司	6名
平成14年 4/27	川瀬裕司	5名
平成14年 5/ 3	奥野淳兒	18名
平成14年 5/12	乃一哲久	13名
平成14年 6/ 1	立川浩之	6名
平成14年 6/15	高山順子	16名

平成14年 7/14	村田明久	15名
平成14年 7/27	立川浩之	18名
平成14年 8/ 9	奥野淳兒	16名
平成14年 8/10	柳 研介	18名
平成14年 8/10	柳 研介	15名
平成14年 8/22	川瀬裕司	4名
平成14年 8/22	川瀬裕司	3名
平成14年 8/24	藍澤正宏	17名
平成14年 9/22	藍澤正宏	21名

平成14年10/ 6	村田明久	4名
平成15年 3/ 9	菊地則雄	18名
平成15年 3/22	菊地則雄	13名

*平成14年5/11、6/30、9/8は荒天中止

バックヤードツアー

平成14年 5/ 5	乃一哲久	14名
平成14年 8/18	村田明久	13名
平成14年11/ 3	藍澤正宏	16名
平成15年 3/29	川瀬裕司	17名

3 資料収集活動

海の博物館では、房総半島を中心とした海の自然に関する資料を収集しています。これらの資料には、動植物の標本や写真・映像のほか、生態調査の記録などがあります。資料収集は、磯採集や打ち上げ採集、スキューバダイビング、漁業混獲物調査をはじめさまざまな方法で行われます。収集した資料は体系的に整理され、展示や教育普及活動、研究などに活用されるとともに、海の自然を記録した基礎資料として保存されます。

3-1 収集資料の紹介

(1) 今年度収集した資料から ー魚類ー

今年度は、勝浦、鴨川、館山、伊豆大島などで調査を行い、2,540点、約200種の魚類を採集、登録することができました。以下では、その中から、興味深いものをいくつか紹介します。

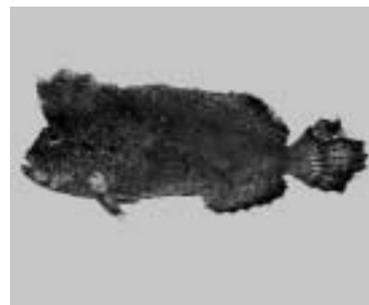
ホシキカイウツボ (①) を伊豆大島より16個体採集しました。このウツボは成長しても40cm程度の小型のウツボで、全国的にも採集例の少ない魚種です。ヤミクモハゼ (②) は、波左間漁港で採れ、千葉県では初めての記録です。鴨川の潜水調査で採集されたマスダオコゼ (③) は採集例が非常に少なく、国内の博物館に保管されている標本も10点にも満たない希種です。これも千葉県からは初めての記録となりました。クロイシモチ (④) は勝浦市鵜原在住の漁師さんが漁獲したものです。本種は、内湾の砂泥底に生息するテンジクダイの仲間で、外海の外房域では稀な種類です。アカイサキ (⑤) とシキシマハナダイ (⑥) は館山湾で釣獲されたものです。刺し網などで捕れたものと違い、非常にきれいな状態で標本にすることができました。



①ホシキカイウツボ (CMNH-ZF4193)



②ヤミクモハゼ (CMNH-ZF4670)



③マスダオコゼ (CMNH-ZF4692)



④クロイシモチ (CMNH-ZF5274)



⑤アカイサキ (CMNH-ZF5104)



⑥シキシマハナダイ (CMNH-ZF4928)

(2) 資料登録点数一覧 (平成14年度末現在)

海綿動物	187	棘皮動物	1,067	写真資料	2,446
刺胞動物	3,206	その他の無脊椎動物	362	動画資料	920
環形動物	1,915	魚類	5,398	図書資料	1,145
貝類	2,265	藻類	4,788		
甲殻類	1,168	種子植物	47		

3-2 資料の受入および貸出

(1) 資料の受入

本年度も、地元勝浦市の漁師さんをはじめ、多くの方々からいろいろな種類の生きものを資料として提供していただきました。その内訳は、魚類が約80点、無脊椎動物が約50点でした。これらの中には、房総半島初記録としてマスコミで話題となったエチゼンクラゲ（7ページ参照）のように貴重な記録となったものも少なくありません。ここでは、これらの中から2種類を取り上げて紹介します。

ダイバーからの資料の提供

当館には、時折、ダイバーから名前を調べるための標本が送られてきます。2001年、沖縄県久米島在住の川本剛志さんから提供された標本中に、異尾類コシオリエビ科の新種と日本新記録種の標本が含まれていました。国立科学博物館の大澤正幸博士との共同研究のもと、学術雑誌（国立科学博物館研究報告A類（動物学）第28巻3号）にこれらの種に関する論文を発表しました。新種となったコシオリエビの一種には、川本さんへ敬意を表して、

Munida kawamotoi という名前をつけました。

当館には、このようにダイバーから送られてきた数々の貴重な標本が集まってきています。



漁業者からの資料の提供

勝浦市鷺原の吉野義一さんから、イセエビを捕るための刺網にかかったクロスジラップウニ *Taxopneustes elegans* を提供していただきました。よく似た種に、房総半島でもふつうに見られるラップウニがありますが、本種はトゲの先端近くにはっきりした黒い帯があるのが特徴です。「ラップウニ」という名は、ふつうのトゲの他に先端がラップ状に開閉する叉棘（さきょく）と呼ばれる特殊な形のトゲを持っていることに由来しますが、本種の叉棘はラップウニほどは目立ちません。これま



でに相模湾以南から報告されており、房総半島からは初めての記録になると思われます。

(2) 資料の貸し出し

本年度は、イッカクの全身骨格標本（雄）ほか2点を群馬県立自然史博物館に貸し出しました。搬出作業は休館日の2月17日に行われ、途中で破損がないように慎重に梱包作業が行われた後に、美術品輸送専用のトラックで数時間をかけて群馬県富岡市の同館へ到着しました。同館では、3月15日から開催の企画展「ツノ出せ、ツメ出せ、キバを出せ」でこれらの標本が展示されました。



肋骨や脊椎骨は大きな木箱に収めます



細かい部分の多い頭骨は特に慎重に梱包します



梱包の終わった木箱をトラックに積み込みます

4 調査研究活動

自然の中には、私たちの知らないことがたくさん隠されています。私たちの身近にある海もその例外ではありません。海の博物館では、房総半島を中心とした海や海岸の自然に関する調査研究を、研究員が分担して同じテーマに取り組む「総合分野」と、各研究員が独自のテーマに取り組む「詳細分野」の2つの分野から進めています。研究の成果は、展示や教育普及活動を通じた情報提供に活かされています。

4-1 総合分野

海の博物館では、房総半島の海の生きものについて総合的な理解を深めるため、勝浦を中心とした県内各地に生息する生物の調査や、博物館の近くの海岸で継続的な定点調査などを行っています。

(1) 県内各地に生息する生物の調査

平成14年度は、魚類、無脊椎動物、藻類の各グループについて、特に黒潮の影響にある海域を中心とした南房総各地において、定置網などによる漁業混獲物の収集、スキューバダイビングによる観察と収集、潮間帯での観察と収集などを行いました。調査によって得られた生きものは、詳しく形を観察し、可能な限り種類を判別しました。また、博物館の登録資料として保存するための標本作りや、写真の撮影等を併せて行いました。これらの標本や写真資料は、調査結果の「証拠」として非常に重要です。海の博物館では、これらの貴重な資料を後世に引き継げるように管理と保管を行っています。



調査は重装備です。時には、早朝から深夜にまでおよぶ作業もあり、まさに体力勝負です

平成12年度から行っている南房総を中心とした黒潮影響域に生息する生物の調査は、平成15年度末までの予定で継続中です。この間の調査によって、これまで房総半島で記録のなかった種類や、新種も発見されました。これらの結果は、随時、学術成果として専門誌などに公表してきました。平成15～16年度には、それらを総括してみなさまにも公表する予定です。



生物の種類によっては、種の判別作業に高い専門性が要求され、かなりの時間がかかる場合があります

(2) 海の博物館地先における定点調査

平成13年4月から毎月、海の博物館地先の磯に設けた定点において、どのような生きものが出現するかを継続的に観察・記録しています。このような調査をモニタリングといい、これは、海の生きものの短期的な増減だけでなく、長期的な変化をも捉えるためにも非常に重要です。

4-2 詳細分野

海の博物館の各研究員は、それぞれが海の生きものについての特定の分野を専門としています。このような専門を生かし、独自のテーマを深く掘り下げて研究するのが「詳細分野」の研究です。内容については、8～10ページのスタッフ紹介を参照してください。

4 - 3 外来研究員・共同研究

(1) 外来研究員

海の博物館では、外来研究員の受入を行っています。平成14年度は、科学技術振興事業団研究員の堀 成夫博士が定期的に来館し、トウガタガイ類について各種の調査や研究を行いました。

トウガタガイ類は、殻の長さが数mm程度の小さな巻き貝で、成長と共に殻の形が変化します。堀博士は、このメカニズムについて研究するため、当館では、殻の形が変化しつつある幼生の採集、走査型電子顕微鏡



組織切片標本を作製する堀博士

による殻の形の観察を行いました。また、貝殻を作る部分にどのような変化が起こるかを詳しく調べるために、その部分を薄くスライスした組織切片標本の作製も行いました。

(2) 共同研究一覧

当館研究員が他機関と共同で行った調査、研究

独立行政法人国立科学博物館共同研究

外部委員：奥野淳児・柳 研介

文部科学省共同利用研究

東京大学海洋研究所調査船淡青丸：柳 研介

東京大学海洋研究所外来研究員：柳 研介

東京大学海洋研究所大槌臨海研究センター：

柳 研介・立川浩之

4 - 4 研究成果の公表

(1) 新たに報告された種から

本年度の研究成果のなかで、いくつかの種類生きものについて、新種の発表や新たな生息地の報告が行われました。ここでは、これらのうちから2種をご紹介します。

ナデシコカクレエビ *Periclimenes sarasvati*

このエビは、琉球列島のサンゴ類に共生する種類で、当館研究員の奥野淳児によって、学術雑誌(国立科学博物館研究報告A類(動物学)第28巻3号)に新種として発表されました。沖縄在住のダイバーからこのエビの最初の標本が届けられたのは、博物館がオープンする前の設置準備班の時でした。当時調べたのはわずか1個体だけでしたので、もう少し調査個体数が増えるまで新種として発表することをひかえていました。その後、計5個体を調査することができ、よく似た種との違いがいくつも見つかりました。そして今回、ようやく新種として発表するに到りました。



パンダスイクチュムシ *Myzostoma lobatum*

スイクチュムシ類は、ウミシダなどの棘皮動物に寄生している小さな生きものです。広い意味のゴカイの仲間(多毛綱)とされていますが、寄生生活のために体の構造が特殊化し、ふつう体は扁平な円盤状です。本種は、これまで日本では京都府の日本海沿岸から知られているだけでしたが、今回館山市で採集したシモフリウミシダに寄生しているのが見つかりました。最大のもでも体長1cm足らずで、スイクチュムシ類としては珍しく、体の左右に2対のヒレ状の突起があるのが特徴です。これまでこの種には和名がありませんでしたが、暗褐色とクリーム色の色彩が特徴的であることから、当



館研究員立川浩之らによってパンダスイクチュムシという新称が付けられ、南紀生物第44巻2号に発表されました。

(2) 成果公表一覧

堀江義一

Horie, Y. 2002. *Aspergillus*, Fungos Patogenicos, Guia pratica de laboratorio 1. In Miyaji, M. ed., Projeto de pesquisa clinica e de treinamento medico da Unicanp, Brazil. pp. 27-28.

Horie, Y. 2002. *Aspergillus*, Fungos Patogenicos, Guia pratica de laboratorio 2. In Miyaji, M. ed., Projeto de pesquisa clinica e de treinamento medico da Unicanp, Brazil. pp. 29-37.

Komai, S., T. Hosoe, K. Nozawa, K. Okada, G. M. C. Takaki, K. Fukushima, M. Miyaji, Y. Horie and K. Kawai. 2003. Antifungal activity of pyranone and furanone derivative, isolated from *Aspergillus* sp. IFM51759, against *Aspergillus fumigatus*. *Mycotoxins*, 53: 11-18.

藍澤正宏

Aizawa, M. 2002. Stomiiformes, Veliferidae, Lamprididae, Carapidae, Stephanoberyciformes, Exocoetoidei, Blenniidae, Diodontidae. In Nakabo, T. ed., Fishes of Japan with pictorial keys to the species, English edition. Tokai Univ. Press, Tokyo, lxi+1-866pp. vii+867-1749pp.

藍澤正宏. 2002. 海からのたより「資料の収集-房総半島周辺の魚たち-」. 中央博物館だより, (54): 7.

藍澤正宏. 2003. 小学館の図鑑NEO「魚」(井田 齊・松浦啓一 監修). 小学館, 200pp. (分担執筆)

立川浩之

立川浩之・入村精一・稲葉 慎. 2002. 小笠原諸島で採集されたクモヒトデ類(予報). うみうし通信, (35): 6-8.

Asakura, A., H. Furumi, K. Nomura and H. Tachikawa. 2002. A brief review of records of *Calcinus gaimardii* (H. Milne Edwards, 1848) and *C. morgani* Rahayu & Forest, 1999 from Japanese waters, with note on color variants of *C. gaimardii* (Crustacea: Decapoda: Anomura: Diogenidae). *Biol. Mag. Okinawa*, 40: 33-40.

Irimura, S. and H. Tachikawa. 2003. Ophiuroids from the Ogasawara Islands (Echinodermata: Ophiuroidea). *Ogasawara Res.*, (28): 1-27.

西 栄二郎・立川浩之. 2002. 日本初記録のウバラカンザシゴカイ(新称)とカワラカンザシゴカイ(新称)の新産地、ヒトエカンザシゴカイとロウトヒトエカンザシゴカイの分布について(多毛綱, カンザシゴカイ科). *南紀生物*, 44(1): 19-24.

西 栄二郎・加藤哲哉・立川浩之. 2002. 房総半島館山近海から採集された棘皮動物に共生するウロコムシとスイクテムシ. *南紀生物*, 44(2): 127-131.

小川数也・立川浩之・高橋耿之介. 2002. 日本産非造礁性イシサンゴ類の再検討と分類の手引-VIII ツツミサンゴ科. *南紀生物*, 44(1): 27-36.

川瀬裕司

Kawase H. 2002. Simplicity and diversity in the reproductive ecology of triggerfish (Balistidae) and filefish (Monacanthidae). *Proc. Int. Commem. Symp., 70th Anniv. JSFS. Fish. Sci. vol. 68, Suppl. I.* 119-122.

Kawase H. 2003. Maternal egg care in the bridled

triggerfish, *Sufflamen fraenatus* (Balistidae) at Hachijojima Island, Japan. *Nat. Hist. Res.* 7(2): (in press).

川瀬裕司. 2003. 千葉県館山湾におけるカワハギ科魚類の繁殖行動. 千葉中央博自然誌研究報告, 7(2): (印刷中).

菊地則雄

菊地則雄・吉田忠生・吉永一男. 2002. 絶滅が危惧される紅藻アマノリ属植物数種の生育状況. *エコソフィア*, 9: 112-117.

Kikuchi, N., M. Miyata and M. Notoya. 2003. Taxonomy of genus *Bangia* (Bangiaceae, Rhodophyta) in Japan. *Phycol. Res.*, (in press).

奥野淳兒

Okuno, J. 2002. A new species of the 'Periclimenes aesopius species group' (Decapoda: Palaemonidae: Pontoninae) from the Ryukyu Islands, southern Japan. *Bull. Nat. Sci. Mus., Tokyo, Ser. A*, 28(4): 211-222.

Okuno, J. 2003. A new species of the genus *Odontozona* Holthuis, 1946 (Crustacea: Decapoda: Stenopodidae) from submarine caves in southern Japan. *Nat. Hist. Res.* 7(2): (in press).

Osawa, M. and J. Okuno. 2002. Shallow-water species of the genus *Munida* (Crustacea, Decapoda, Anomura, Galatheididae) from the Ryukyu and Ogasawara Islands, southern Japan. *Bull. Nat. Sci. Mus., Tokyo, Ser. A*, 28(3): 129-141.

奥野淳兒・斎藤知己・川本剛志・平山昌・野村恵一. 2003. クメジマオトヒメエビ(新称)(甲殻上綱: 十脚目: オトヒメエビ科)の東アジア海域における記録と種内変異. 千葉中央博自然誌研究報告, 7(2): (印刷中).

奥野淳兒. 2002. 海博だより. —サラサエビの仲間—. 友の会ニュース, (45): 6.

奥野淳兒. 2002. 平成14年度マリンサイエンスギャラリー ヤドカリの世界. 11 pp. 千葉県立中央博物館 分館海の博物館.

奥野淳兒. 2002. 分館海の博物館 平成14年度マリンサイエンスギャラリー ヤドカリの世界. 中央博物館だより, (54): 1-2.

柳 研介

Hori, S. and K. Yanagi. 2002. On the association between *Cirsotrema varicosa* (Lamarck, 1822) (Gastropoda: Epitoniidae) and the sea anemone *Radianthus crispus* (Ehrenberg, 1834) (Cnidaria: Anthozoa: Actiniaria). *La Conchiglia*, 34(303): 13-14, 59.

柳 研介. 2002. クローンをつくるイソギンチャク. 国立科学博物館ニュース, 405: 6-7.

柳 研介. 2002. 海博だより-貝殻をつくる!?イソギンチャク-. 友の会ニュース, (46): 6.

柳 研介. 2002. 海からのたより「勝浦に出現したエチゼンクラゲ」. 中央博物館だより, (55): 7.

村田明久

村田明久. 2002. 海博だより-エボシガイの正体-. 友の会ニュース, (46): 6.

事務室より

利用状況

海の博物館では、来館者入口の天井に取り付けた自動計測システムによって入場者数を計数しています。また、事前に提出していただいている団体見学申込票や、受付で記載していただいている団体名簿によって団体でのご利用を確認しています。それらを集計した本年度の当館の利用状況は下表の通りで、入場者数は、昨年度よりも15,136人増加しました。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	累計
開館日数(日数)	26	27	26	28	29	25	25	26	21	23	24	26	306
入場者数(人数)	17,788	22,602	12,306	18,799	47,791	16,308	14,332	16,477	8,934	16,410	14,170	23,833	229,804
一般団体(件数)	7	5	6	7	8	5	12	14	7	4	7	3	85
学校団体(件数)	0	14	13	3	0	2	3	3	2	1	1	1	43
団体場定者(件数)	366	1,223	1,346	504	305	338	889	676	369	247	250	355	6,868

臨時開館・休館

千葉県の子立博物館は、毎週月曜日（休日の場合はその翌日）と年末年始を定期休館日としています。これまで、海の博物館では、利用者が集中するゴールデンウィークならびに夏休み期間中の定期休館日を臨時に開館してきましたが、本年度は新たに年始にも臨時開館日を設けました。

施設のメンテナンス作業などのため、10月8～9日と1月21～23日の5日間を臨時休館日としました。また、台風が接近した10月1日には、午後3時より臨時閉館としました。

臨時開館日	入場者数
平成14年 4/30	1,022 名
平成14年 7/22	712 名
平成14年 7/29	904 名
平成14年 8/ 5	1,368 名
平成14年 8/12	2,037 名
平成15年 1/ 2	2,740 名
平成15年 1/ 3	2,710 名
平成15年 1/ 4	1,001 名
合計	12,494 名

防災避難訓練

海の博物館では、毎年、空気が乾燥し火災が多発する冬季に防災避難訓練を実施しています。

本年度は、職員の防災意識の向上を目指し、5月23日と2月26日の2回、防災避難訓練を実施しました。見学中的方々には、ご迷惑をお掛けしましたが、快くご協力していただき、感謝しております。

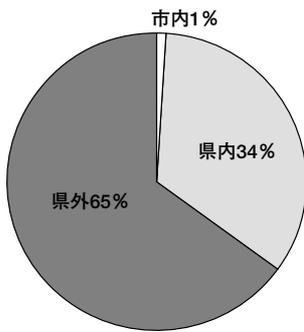


台風被害

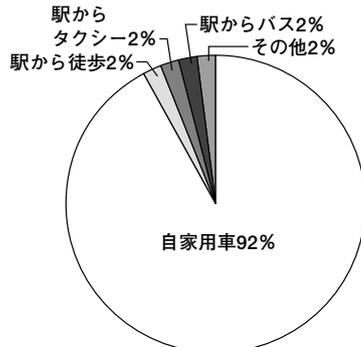
当館は海の近くに建っているため、台風接近の情報が入ると、その都度、職員が風波被害への備えを行っています。幸い、平成10年度末の開館以来、これまでの3年間は大きな被害はありませんでしたが、14年10月1日の台風21号の接近では、屋外に展示してあるツチクジラの骨格標本が一部破損する被害がありました。しかし、翌日早朝より職員総出で復旧作業を行い、みなさまの見学には支障をきたしませんでした。

入場者アンケート

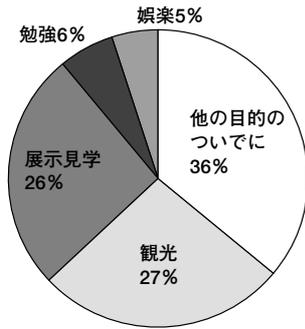
海の博物館の利用者層や感想などを把握するために、平成14年8月12～13日に、展示室においてアンケート調査を実施しました。458名の方々に答えていただき、集計結果は以下の通りとなりました。ご協力、ありがとうございました。



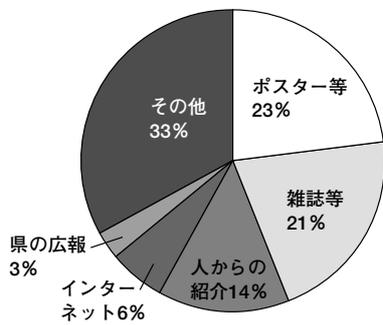
どこから来ましたか？



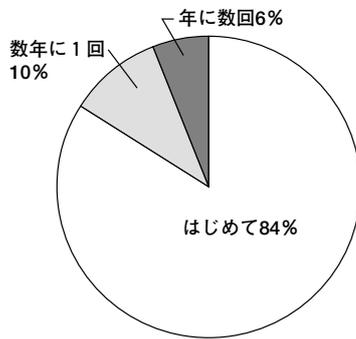
交通機関は？



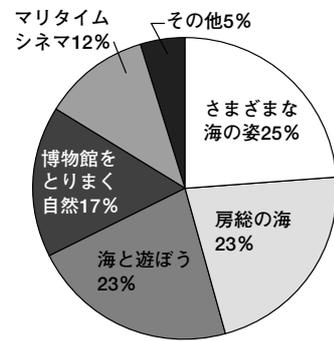
目的は？



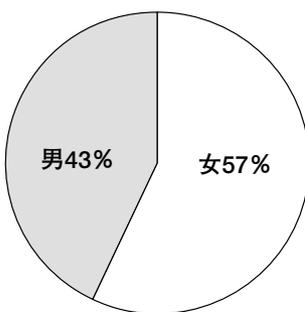
当館を知ったのは？



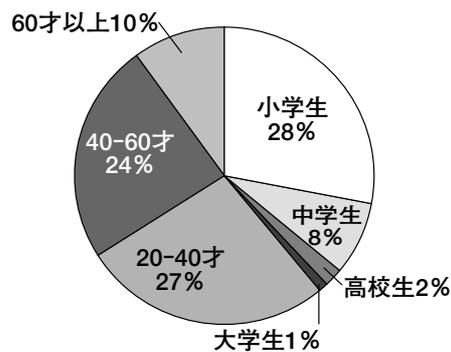
当館を利用するのは？



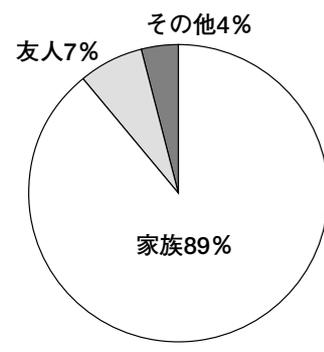
面白かった展示コーナーは？



性別は？



年齢は？



だれと来ましたか？

アンケートの結果をみると、夏休み期間中ということもあり、目的は観光、同伴者は家族、交通機関は自家用車という方が大半を占めていました。また、県外からのお客様が多く、当館を繰り返し利用されているお客様は約20%でした。そのためか、展示に関する質問では、千葉県の特徴ある海を紹介した「さまざまな海の姿」のコーナーが最も人気があったようです。

集計できる設問とは別に、自由記述の項において、多くの貴重な意見をいただきました。そちらの内容は、16ページの「博物館への手紙」とも重複しますので、ここでは省略させていただきますが、みなさまからいただいた意見に素直に耳を傾け、改善できることは改善し、今後、ますます充実した博物館を目指して、職員一同努力していきます。

平成15年度の行事予定

講座

実施日	時間	タイトル	内容	対象	定員
平成15年4月6日(日)	10:30-15:00	顕微鏡で海藻を観察しよう	磯で採集した海藻の体のつくりを顕微鏡を使って観察します。	高校生以上	15名
平成15年5月3日(土)	10:30-15:00	海藻おしばを作ろう	磯で採集した海藻のおしばつくりを体験しながら海藻について学びます。	小学生以上 (小学生は保護者同伴)	15名
平成15年5月17日(土)	13:30-15:30	ウミウシを調べよう	博物館前の磯で採集したウミウシを顕微鏡で観察します。	小学4年生以上 (小学生は保護者同伴)	20名
平成15年6月1日(日)	13:00-15:00	親子で磯の生きものを観察しよう1	博物館前の磯で採集した生きものを調べます。	小学生と保護者	20名
平成15年6月8日(日)	13:00-15:00	親子で魚拓を作ろう	親子で魚拓作りにチャレンジします。	小学生と保護者	20名
平成15年6月22日(日)	13:30-15:00	海辺の野鳥	勝浦の周辺で見られる野鳥を紹介します。	中学生以上	20名
平成15年7月30日(水)	13:00-15:00	親子で磯の生きものを観察しよう2	磯の生きものを使って観察と実験を行います。	小学生以上 (小学生は保護者同伴)	20名
平成15年11月16日(日)	13:00-15:00	子育てする魚	子育てをする魚をビデオを交えて紹介します。	中学生以上	20名
平成15年12月6日(土)	10:00-12:00	ダイバーのためのエビ・カニ講座	ダイバーに人気のあるエビやカニを題材とした講座です。	高校生以上	15名
平成15年12月6日(土)	13:00-15:00	クジラの雑学講座	クジラ類の特徴や形態を標本を用いて紹介します。	高校生以上	20名
平成16年1月18日(日)	13:00-16:00	深海の生きもの	深海の生きものを標本とスライドで紹介いたします。	中学生以上	20名
平成16年1月25日(日)	13:30-15:00	海鳥	勝浦で見られる海鳥を紹介します。	中学生以上	20名

観察会

実施日	時間	タイトル	内容	対象	定員
平成15年4月20日(日)	11:00-13:00	親子で磯の生きものを探そう入門編	親子でよく見られる磯の生きものを観察します。	小学生と保護者	20名
平成15年4月27日(日)	10:00-15:00	春の植物	鵜原理想郷で春に見られる植物を観察します。	中学生以上	35名
平成15年5月17日(土)	10:30-12:30	ウミウシを探そう	博物館前の磯でウミウシを観察します。	小学4年生以上 (小学生は保護者同伴)	20名
平成15年6月1日(日)	10:00-12:00	親子で磯の生きものを探そう1	親子で磯の生きものを探します。	小学生と保護者	20名
平成15年6月15日(日)	10:00-15:00	鵜原理想郷周辺の地層	鵜原理想郷周辺で見られる地層を観察します。	小学4年生以上 (小学生は保護者同伴)	20名
平成15年6月22日(日)	10:00-12:00	船に乗って海鳥を観察しよう1	勝浦の海上で見られる野鳥を観察します。	中学生以上	9名
平成15年7月13日(日)	9:00-11:00	勝浦のエビ・カニ・ヤドカリ	博物館前の磯でエビやカニを観察します。	高校生以上	20名
平成15年7月20日(日)	10:00-12:00	流れ藻に付く稚魚を観察しよう	船に乗って流れ藻に付く稚魚を観察します。	一般	5名
平成15年7月27日(日)	9:30-12:30	水中メガネで海中の生きものを観察しよう	水中メガネで海の生きものを観察します。	小学生と保護者	20名
平成15年7月30日(水)	10:00-12:00	親子で磯の生きものを探そう2	親子で磯の生きものを探します。	小学生と保護者	20名
平成15年8月23日(土)	10:00-15:00	夏の植物	鵜原理想郷で夏に見られる植物を観察します。	中学生以上	35名
平成15年8月30日(土)	10:30-12:30	親子で磯の小魚を探そう	博物館前の磯で小魚を観察します。	小学生と保護者	20名
平成15年11月9日(日)	10:00-15:00	秋の植物	鵜原理想郷で秋に見られる植物を観察します。	中学生以上	35名
平成16年1月25日(日)	10:00-12:00	船に乗って海鳥を観察しよう2	勝浦の海上で見られる野鳥を観察します。	中学生以上	9名
平成16年2月8日(日)	10:00-15:00	冬の植物	鵜原理想郷で冬に見られる植物を観察します。	中学生以上	35名
平成16年3月27日(土)	13:00-15:30	食べられる海藻を探そう	食用となる海藻を観察し、それらと漁業や食文化との関連を紹介します。	一般	20名

フィールドトリップ

磯の生きものの観察を行います。(定員各15名)

平成15年

4月 5日 (土) 11:30-12:30	7月 5日 (土) 14:00-15:00
4月 6日 (日) 11:00-12:00	7月13日 (日) 10:00-11:00
4月19日 (土) 11:00-12:00	8月12日 (火) 10:00-10:30
5月 4日 (日) 11:30-12:30	8月12日 (火) 10:45-11:15
5月 5日 (月) 11:00-12:00	8月13日 (水) 10:30-11:00
5月 5日 (月) 13:00-14:00	8月13日 (水) 11:15-11:45
5月17日 (土) 11:00-12:00	8月30日 (土) 11:00-12:00
5月18日 (日) 11:00-12:00	9月27日 (土) 11:00-12:00
5月31日 (土) 10:00-11:00	平成16年
6月14日 (土) 10:00-11:00	3月13日 (土) 14:00-15:00
6月15日 (日) 11:00-12:00	3月21日 (日) 10:30-11:30
6月29日 (日) 10:00-11:00	3月28日 (日) 14:00-15:00

バックヤードツアー

博物館の裏方を見学します。(定員各15名)

平成15年

10月25日 (土) 13:00-13:30

平成16年

1月11日 (日) 13:00-13:30

2月22日 (日) 13:00-13:30

3月20日 (土) 13:00-13:30

マリンサイエンスギャラリー 子育てする魚

—自分の子どもを残すための巧みな工夫—

平成15年11月1日 (土) ~平成16年1月7日 (水)

みなさんは子育てをする魚がいることをご存知ですか？
岩の上に産み付けられた卵にヒレで新鮮な水を送って世話を
する魚、産み落とされた卵を口の中にくわえて外敵から
守る魚、子どもが大きくなるまでお腹の中で育てる魚など

いろいろな子育てが知られています。中には“他人”の子どもを育てる魚や、自分の子どもを食べてしまう魚もいます。子育ての役割分担もさまざまで、両親が行う場合もあれば雌雄のいずれかの親だけが行う場合もあります。今回の展示では、魚が自分の子どもを残すためにあみ出した巧みな子育てを、最近の研究結果を交えてさまざまな観点から紹介します。

海の体験コーナー

海の生きものに関する簡単な実習を行います。11時と13時半からの2回の開催です。(定員各6名)

平成15年

4月13日 (日) 27日 (日)

5月11日 (日) 25日 (日)

6月 8日 (日) 22日 (日)

7月 6日 (日) 20日 (日) 26日 (土)

31日 (木)

8月 3日 (日) 9日 (土) 14日 (木)

17日 (日) 23日 (土) 28日 (木)

31日 (日)

9月14日 (日) 20日 (土) 28日 (日)

10月12日 (日) 18日 (日) 26日 (日)

11月 9日 (日) 15日 (土) 23日 (日)

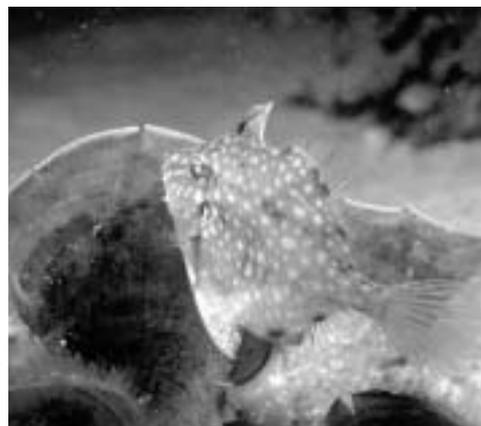
12月 7日 (日) 13日 (土) 21日 (日)

平成16年

1月10日 (土) 18日 (日) 25日 (日)

2月 1日 (日) 15日 (日) 29日 (日)

3月14日 (日) 28日 (日)



卵の世話をするアミメハギのメス

海の環境学習研修会

海辺での校外学習を計画、担当されている先生方のための研修会です。平成15年度は、7月11日(基礎編、千葉県総合教育センターとの共催)、7月31日(基礎編)、8月1日(応用編)に行います。定員は各回ともに20名で、申込締切は6月14日です。

野外実習授業

博物館(研究員)と学校(教員)が共同で行う海辺での校外学習です。海の生きものを専門とする研究員が先生方のサポートを行い、安全にも配慮しつつ、子供達が海の生きものや自然に親しむ機会を提供します。申込締切は、実施日にかかわらず、4月19日です。

職員からの一言



本年度は22万9千人の方々をお迎えする事ができました。この夏には開館以来100万人目の来館者をお迎えできる予定です。今後とも地道な調査・研究、資料収集を基に、斬新な展示や教育普及活動を展開し多くの方々の海に対する興味に応えていきたいと考えています。(堀江)

オープンして間もない海の博物館に来て3年がたちました。これからも、ますます充実した博物館になっていくことを願っています。(北田)

初めての博物館勤務。解らない専門用語の雨霞、何事もドキドキしながらの一年でした。この緊張感を維持しながら今後の博物館勤務に生かして行きたいと思っています。めざせ100万人！(近藤)

かわいい猫と美しい海を見ながら通勤して早二年。色々な面で新鮮な空気を一杯吸って来年も頑張ります。(三平)

今年は、魚類標本の登録点数が5,000点を超えました。写真資料も少しずつですが増えています。まだ標本のない魚もたくさんあり、来年はヤマボウを採集したいです。(藍澤)

今回の「いそび通信」、いかがだったでしょうか？ 今号は、私が企画・編集を担当しました。博物館に務めて9年になりますが、まだまだ担当したことのない仕事はあるものです。(乃一)

平成15年度に開催する企画展の準備が始まり、忙しい日々が続いています。みなさん楽しんでいただける展示にしたいと思います。(川瀬)

海の近くにいると、無理して時間を作らないとなかなかフィールドには出られません。来年度こそは海の生きものの写真をたくさん撮ります。(立川)

海辺の生きものを観察したりする時間が、日常であり得る平和な世界になりますように。(高山)

総合的な学習の時間で海藻を取り上げた学校から質問などがありました。子ども向けの参考図書はほとんどなく、回答には苦労しました。こどもに、より海藻を知ってもらうための工夫が、今後の課題です。(菊地)

今年度の仕事と言えば、企画展の担当となったこと、これに尽きます。ヤドカリの魅力をどうやって皆さんに伝えていくか。試行錯誤の繰り返しでしたが、充実した時間を過ごすことができました。(奥野)

入館者の増加に伴い各種の要望も増えてきました。ご期待に添えるよう今後も精進していきたいです。(柳)

今年度はイッカク展が開催されるなど、展示の仕事に追われて慌ただしく1年が過ぎ去ってしまいました。うーむ。(村田)

体験コーナーのメニューが増えました。が、高梨指導員が開発したコーラルプリントにシラスはおしゃれ気味。来年度は巻き返します。(高橋)

全く知らない人にでも「こんにちは！」と言いたくなる時があります。仕事で身に付いた癖だと思われれます。(高梨)

職員の異動

平成14年4月1日

近藤佳純(副主査) 転入

(千葉県教育庁夷隅地方出張所)

平成15年3月31日

北田美枝(主査) 転出

(千葉県立岬高等学校)

ご利用の案内

開館時間	午前9時～午後4時30分
休館日	毎週月曜日(ただし、月曜日が休日にあたるときはその翌日、8月は無休)、年末年始(12月26日～1月1日)、その他の臨時休館日
入館料	無料
駐車場	午前8時30分～午後5時15分(有料)
交通	JR外房線 鵜原駅から徒歩15分 勝浦駅からタクシーで約10分 勝浦駅から小湊鉄道バス「興津経由松野」行き「吉尾入口」下車、徒歩12分 勝浦駅から小湊鉄道バス「海中公園・海の博物館」行き下車すぐ(土曜日、日曜日、祝日のみ)
自動車	千葉市からR16、R297、R128を使って約2時間 東京湾アクアラインから館山自動車道、R409、R297、R128を使って約1時間半 館山市からR128を使って約1時間半 銚子市からR126、R128を使って約3時間

平成14年度 千葉県立中央博物館分館 海の博物館ニュースレター「いそび通信」No.4 平成15年3月31日発行

編集発行 千葉県立中央博物館分館 海の博物館

〒299-5242 千葉県勝浦市吉尾123 電話 0470-76-1133 FAX 0470-76-1821

e-mail umihaku@chiba-muse.or.jp URL <http://www.chiba-muse.or.jp/UMIHAKU/index.htm>